

# 平成 29 年度 アリアーレビューティー専門学校

## 学校関係者評価報告書

学校法人愛知理容学園 アリアーレビューティー専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 30 年 6 月 26 日に「平成 29 年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

平成 30 年 7 月 10 日

学校法人 愛知理容学園  
アリアーレビューティー専門学校  
学校関係者評価委員会

### 1. 学校関係者評価委員（出席者）

1. 池山英一（アリアーレビューティー専門学校 理事長・校長）
2. 福澤壽和（愛知県理容生活衛生同業組合 理事長）
3. 山田資喜（愛知県美容業生活衛生同業組合 常務理事）
4. 廣瀬麻美（卒業生）
5. 尾関之一（ベリーバイヘアースポットオゼキ）
6. 近藤文峰（第一学院高校教諭）
7. 川野公稔（指吸会計センター(株) 名古屋支店 支店長）
8. 中川信子（名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院 校長）
9. 市川利恵子（PTA 役員）
10. 藤原さやか（卒業生）

#### ●オブザーバー（本校教職員）

山口 孝、森山 郁子

## 2. 平成 30 年度 自己評価 (平成 29 年度の学校運営等についての評価)

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	<p>評価：(両学科) ほぼ適切</p> <p>課題：(両学科) 社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想が見えない。</p> <p>改善：(両学科) 現在、教育理念だけでなく、もっと具体的な養成しようとする人物像を理容科・美容科共に決定。(3つずつ) 超高齢化社会に対応するため障害者施設等訪問しているが、学生任意から卒業するまでに1度は経験するよう、クラス単位での参加に変更しました。</p>
(2) 学校運営	<p>評価：(両学科) ほぼ適切</p> <p>課題：(両学科) 組織整備等意思決定システムの整備があまり有効でない。</p> <p>改善：(両学科) 業務内容・実績等による人物評価、賞与・昇給に反映される基準等が明確でないため、組織体制の強化及び業務分担や決定権限の範囲を明確に盛り込みながら就業規則の見直しを行う。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：(両学科) ほぼ適切。</p> <p>課題：(両学科) 教職員研修であるが、人事評価をしてから研修及び研修評価につなげることはしていない。教職員の能力評価を学校経営の中でやっていない。</p> <p>改善：(両学科) 就業規則第 23 条第 10 項に教職員研修に関する定義を明記。教員の業務経験や能力、担当業務に応じて研修内容を整備する。</p>
(4) 学習成果	<p>評価：(両学科) ほぼ適切。理容・美容共、就職率 100%</p> <p>課題：(両学科) 資格取得率の向上が図られていない。</p> <p>改善：(両学科) 美容科においては 29 年 3 月、30 年 3 月と 2 年連続国家試験合格率が全国平均すら届かず。想定外の学生が不合格であったりし、どこにも原因や要因、責任はないのか模索中。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：(両学科) 適切</p> <p>課題：(両学科) 社会貢献・地域貢献への取り組みはいくつかあるが、キャリア教育・職業教育への取り組みがスポット的な動きで止まっている。</p> <p>改善：(両学科) 29 年 9 月、科学技術学園高校と連携教育計画に関する合意書を締結。相互間の出張授業、人材育成その他学生の活動に関することが含まれる。</p>

(6) 教育環境	<p>評価：(両学科) 適切。</p> <p>課題：(両学科) 図書室や実習室が、学生にとって平等で有効に活用されるよう工夫やメンテナンスが必要。</p> <p>改善：(両学科) PTA の協力を得ながら図書の購入を実施。実習室の利用も学習計画をより一層綿密にすることにより、最大限の有効活用をしていく。</p>
(7) 学生受け入れ 募集	<p>評価：(両学科) ほぼ適切。</p> <p>課題：(両学科) 定員に対する充足率が低い。諸施策にも関わらず、学科の理解と魅力・イメージを伝えきれていない。学生募集に関し教職員全員が「主役」という意識がない。学生がいないと始まらないという切迫感も希薄である。</p> <p>改善：(両学科) 学生像や理・美容師という仕事が魅力的に伝えられるように、印刷物、Web ページ等の工夫を今まで以上に実施する。在校生保護者からも学校の魅力を伝えてもらう。</p>
(8) 財務	<p>評価：(両学科) ほぼ適切。</p> <p>課題：(両学科) 減り続ける 18 歳人口のみを実質的な市場としている以上、中長期的に財務が安定とは言えない。</p> <p>改善 (両学科) 復職支援や短期スクール等社会人の学び直しを検討する。</p>
(9) 法令等の遵守	<p>評価：(両学科) ほぼ適切。</p> <p>課題：(両学科) 教員の組織体制、理容・美容 W ライセンスの取得規定、個人情報保護法にからむ文書管理規則等、学内ルールの整備や明文化がない。</p> <p>改善 (両学科) 学則及び学則細則の改定を行い、明文化を図る。</p>
(10) 社会貢献・ 地域貢献	<p>評価：(両学科) 適切。</p> <p>課題：(両学科) 学生が何のために実施しているのか、社会貢献・地域貢献とは何なのかの意識がまだ少し低い。</p> <p>改善：(両学科) 募集パンフレットにも過去の取り組み等を載せ、入学前から学校の考え方・方針を伝える。</p>

### 3. 平成 30 年度 学校関係者評価 (平成 29 年度の自己評価についての評価)

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか等」	ほぼ適切である。
(2) 学校運営	ほぼ適切である。

「目的等に沿った運営方針が策定されているか等」	
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか等」	ほぼ適切である。
(4) 学習成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか等」	ほぼ適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか等」	ほぼ適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか等」	ほぼ適切である。
(7) 学生受け入れ 募集 「学生募集活動は適正に行われているか等」	ほぼ適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか等」	ほぼ適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか等」	ほぼ適切である。
(10) 社会貢献・ 地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢	適切である。

献・地域貢献をおこなっているか等」	
-------------------	--

#### 4. 学校関係者評価 総括と課題について

自己評価結果についての全体的な評価・意見等	各委員との質疑・応答の中で半分以上は既に実施・検討をしているものであったが、それでも相当数やらなければならない事が見つかり、今後、課題を解決しつつ改善に努めていただきたい。また、各業界のニーズに対しては、教育課程編成委員会、学校後援会、学校 PTA 等も含め、しっかり議論をしていただき、教育に反映していただきたい。
-----------------------	--